

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価(案)

## 1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置して、昨年度で第2回目の卒業生を送り出したところである。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン(標語)である「生徒が主役！一生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現」を掲げ、ものづくり人材の育成を図る。

- 1 授業や特別活動を通じ、生徒が生き生きと学び、将来へのキャリア形成を着実に行う。
- 2 規律を遵守し、規範意識を持ち、正しさを一貫して追求する。
- 3 生徒の多様な進路を保障しつつ、社会に有為な技術者を送り出す。
- 4 地域に貢献し、地域に開かれた信頼される学校となる。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力向上への取組み

(1) 生徒が積極的に授業に参加し、基礎的・基本的な学力の定着ができるよう、生徒との信頼関係をベースにした授業改善に取り組む。

ア 生徒の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。

ウ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

※授業アンケート結果における授業満足度(平成28年度79.0%、平成29年度80.8%)を、平成31年度には84.0%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業の工夫等」(平成28年度45.0%、平成29年度56.0%)を、平成31年度には65.0%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習者の増加」(平成28年度20.0%、平成29年度36.5%)を、平成31年度には45.0%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「図書館機能の充実」(平成28年度54.0%、平成29年度61.0%)を、平成31年度には65.0%以上にする。

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

ウ 英語の4技能(「聞く・話す・読む・書く」)をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

※インターンシップ参加者(平成28年度65名、平成29年度42名 [H30.1.31現在])を、平成31年度には60名以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「実習授業満足度」(平成28年度74.5%、平成29年度77.0%)を、平成31年度には83.0%以上にする。

※資格取得者の増加を図り、全国工業高等学校長協会(全工協会)で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B:H30から制度化]の取得(平成28年度G3名・S8名、平成29年度G4名・S8名)を、平成31年度にはG5名・S10名・B20名以上にする。

## 2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心をはぐくむ

(1) 人権教育に立脚した他者と連携する力の育成に努めるとともに、生徒との信頼関係をベースにした毅然とした生徒指導を行う。

ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。

イ 問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。

ウ 情報モラルやセキュリティに関する教育の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「人権教育等の充実度」(平成28年度49.5%、平成29年度65.5%)を、平成31年度には70.0%以上にする。

※問題行動指導(平成28年度14件・32名、平成29年度7件・20名 [H30.1.31現在])を、平成31年度には件数を一桁台にする。

※遅刻件数(平成28年度4,453件、平成29年度2,525件 [H30.1.12現在])を、平成31年度には2,000件以下にする。

※転退学率(平成28年度1.69% [転学0.95%、退学0.74%]、平成29年度1.26% [転学0.63%、退学0.63%] [H30.1.31現在])を、平成31年度には1.5%以下にする。

(2) 分掌・学年等の取組の中で、生徒の自己実現への支援に努める。

ア 支援教育の充実のため教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

イ 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、学校行事を含めて生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

ウ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、国公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。

エ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。また、進学した生徒の学習状況調査を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生の相談対応」(平成28年度52.5%、平成29年度55.5%)を、平成31年度には60.0%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路に関する行事の充実」(平成28年度67.5%、平成29年度59.5%)を、平成31年度には70.0%以上にする。

※就職一次合格率(平成28年度82.1% [工科平均82.6%]、平成29年度83.6% [工科平均84.8%])を、平成31年度には工科平均以上にする。

※就職希望者内定率(平成28年度100% [214名]、平成29年度100% [218名])、進学希望者内定率(平成28年度95.1% [78/82名]、平成29年度97.5% [79/81名] [H30.1.25現在])を、平成31年度には共に100%にする。

※3年後の離職率(平成28年度21.7%、平成29年度27.7%)を、平成31年度には20%以下にする。

## 3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 平成31年度の旅費縮減を踏まえて、旅費がかかる中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の小・中学校等との連携を深め、学校の活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

※小・中学校との連携(平成28年度5回、平成29年度6回)を、平成31年度には8回にする。

※志願倍率(平成28年度入試 [総合] 0.996倍 [工学] 1.175倍、平成29年度入試 [総合] 1.014倍 [工学] 1.725倍)を、平成31年度には総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

(2) 生徒がものづくり大会等で入賞できるよう、教員の「ものづくり」技術を継承し、意欲ある教員の育成に努める。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立など、ものづくり大会へ参加し、全国大会をめざす。

イ マイコンカーレース・ロボット相撲大会などに参加し、全国大会をめざす。

※高校生ものづくり大会旋盤部門(近畿大会:平成28年度準優勝・第5位、平成29年度準優勝・第3位)を、平成31年度には近畿大会で優勝して全国大会に出場する。

(3) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。

ア 部活動加入率の向上とともに、環境整備や安全対策の強化を図る。

イ 学校課題について五役会(校長・教頭・首席・指導教諭・事務長)で検討し、組織的に迅速な実行を図る。

ウ 教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務のICT化を進める。

※部活動加入率(平成28年度69.0%、平成29年度66.8%)を、平成31年度には72.0%以上にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

## 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 学力の定着 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業、外部と連携した研修の充実 ウ 家庭学習と学校図書館機能の充実</p> <p>(2) ものづくり教育 ア キャリア教育・職業教育の充実 イ 資格取得への支援 ウ 英語の4技能指導による技術者の育成</p>	<p>(1) ア・教員の授業に対する生徒の意識を把握し、指導力向上を図る。 ・全学年において基礎学力調査等による生徒学力定点観測・分析を行い、課題の克服を図る。 イ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員相互の授業見学、授業力向上研修を進める。 ウ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携により、キャリア教育・職業教育への興味や関心を高める。 イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。 ウ・英語学力調査を入学生から新規導入し、4技能の分析を行い、英語教育の指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの質問9「授業満足度」82%以上(H29: 80.8%) ・学校教育自己診断「授業の工夫等」平均60%以上(H29:1年50%、3年62%) ・生徒の経年値学力の向上 イ・相互授業見学1人2回以上 ・公開研究授業の実施(各教科) ウ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」平均40%以上(H29:1年30%、3年43%) ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」平均63%以上(H29:1年63%、3年59%)</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者数: 50名以上(H29:42名 [H30.1.31現在]) ・学校教育自己診断「実習授業満足度」平均80%以上(H29:1年75%、3年79%) イ・ジェニアマスター: H29取得者数からの増加(H29:G4, S8) ウ・H30導入予定</p>	
2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心をはぐくむ	<p>(1) 人権教育と生徒指導 ア 発達段階に応じた人権教育の充実 イ 問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少を図る ウ 情報モラルやセキュリティの啓発に努める</p> <p>(2) 生徒の自己実現への支援 ア 教育相談体制の充実 イ 進路実現に向けた指導の充実 ウ 進路希望の実現 エ 離職率調査と大学進学者への学習状況調査</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権HRを実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」共生社会を学ぶ。 イ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻件数の減少を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 ウ・情報に関する授業での指導と、集会時や外部講師による啓発等を行う。</p> <p>(2) ア・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、教員による相談対応の充実を図る。 イ・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する学校行事の充実を図る。 ウ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・就職希望者内定率、進学希望者内定率100%をめざす。 エ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。 ・大学進学者への学習状況調査を継続し、進学指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」平均68%以上(H28:1年66%、3年65%) イ・問題行動指導: 件数一桁台(H29:7件・20名 [H30.1.31現在]) ・遅刻件数: 2,500件以下(H29:2,525件 [H30.1.12現在]) ・転退学率: 1.6%以下(H29:1.26% [H30.1.31現在]) ウ・外部講師による啓発: 各学年1回(H29:未実施)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「先生の相談対応」平均58%以上(H29:1年46%、3年65%) イ・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」平均65%以上(H29:1年53%、3年66%) ・就職一次合格率: 工科平均以上(H29:83.6%、工科平均84.8%) ウ・就職並びに進学希望者内定率: 共に100%(H29:就職100%、進学97.5% [H30.1.25現在]) エ・離職率: 23%以下(H29:27.7%) ・学習状況調査による課題の洗い出し</p>	

<p>3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立</p>	<p>(1) 広報活動と志願者確保 ア 広報活動の検討・充実 イ 地域との連携 ウ 志願者倍率</p> <p>(2) ものづくりに対応する教員の育成 ア ものづくり大会への参加 イ マイコンを利用した大会への参加</p> <p>(3) 有意義な学校生活と学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の対応と迅速な組織体制 ウ 校務の ICT 化</p>	<p>(1) ア・旅費がかかる中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。 イ・地域の小・中学校との連携を深め、学校の活性化を図る。 ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習内容に合致した高校生ものづくり大会へ参加し、全国大会に出場できるよう近畿大会で優勝をめざす。 イ・マイコンカーレースやロボット相撲大会に出場し、上位入賞して全国大会出場をめざす。</p> <p>(3) ア・部活動加入率を向上させ、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 イ・五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で将来構想や課題を分析・検討し、学校組織の改革を図る。 ウ・職員室が分散しているため、校務やグループウェア等を活用した ICT 化を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問 (H29:112 校)、出前授業 (H29: 8 校)、学校説明会 (H29:10 件) の精査・充実 [H30.1.31 現在] イ・小・中学校との連携：7 回以上 (H29：6 回) ウ・志願者倍率：1 倍以上 (H29: [総合] 1.175 倍、[総合] 1.725 倍)</p> <p>(2) ア・ものづくり大会の成果 (H29: 旋盤が近畿大会準優勝) イ・マイコンカー、ロボット相撲の成果 (H29: 共に全国大会出場)</p> <p>(3) ア・部活動加入率：70% 以上 (H29:66.8%) イ・改革や課題解決による成果 ウ・ICT 活用による成果</p>	
------------------------------------	---	--	--	--